



ウィメンズパル図書資料室にある ちょっと変わった絵本たち



葛飾区男女平等推進センター

★ちょっと変わった子どもたちの話

『ぼくは赤ちゃんがほしいの』 童話屋/2007

シャーロット・ゾロトウ文/ペネ・デュボア絵/みらいなな訳

男の子のウィリアムは、バスケットをするよりも、汽車の模型よりも、人形が大好き。みんなからは「女の子みたい」とからかわれますが、その理由をおぼあちゃんだけはわかっていました。やさしい気持ちで育つ絵本。



『森の大きな女の子』 セーラー出版/1998

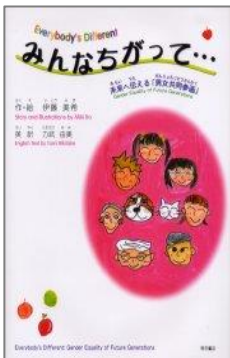
エヴェリン・ハスラー文/レナーテ・ゼーリッヒ絵/服部いつみ訳

おかし、大きな大きな女の子がいました。人々をびっくりさせないように、森の入り口にひとりぼっちで住んでいました。人々との交流や恋に憧れながら果たせないでいた女の子に、カーニバルの日、転機が訪れます。

『きみのともだち』 岩崎書店/2008/竹内通雅作

おとこってなに？ へんってなに？ ともだちってなに？

おままごとやぬいぐるみ、お化粧やスカートが好きな男の子と、サッカーや怪獣ごっこが好きな男の子の友情を描いた絵本。



『みんなちがって...未来へ伝える「男女共同参画」』

明石書店/2006/伊藤美希作・絵/カ武由美英訳

きみえさんは、木のぼりじょうです。おりょうりじょうずなけんいちさんや、あみもののとくいなゆういちろうさんがいます。たったまもおしっこをするメスのパール、青いろが大すきなれい子さんもいます。男の人も女の子の人も、みんな一人一人ちがっているからすばらしいのです。えいごのやくもついている本です。

『イリスのたんじょうび』 文芸社/2016/がリーどちえこ作

もうすぐイリスのたんじょうび。イリスは花がだいすきで、男の子だけけどいつも耳に花をつけている。みんなで何をプレゼントするか相談するけれど、なかなかきまらない。そんなとき、ジャンが言いだした。「スカートはどうか？」みんなびっくり。だって、イリスは男の子だよ…。さて、イリスのプレゼントはどうなるのかな。



『ぼくのつばさ』

評論社/2017/トム・パーシヴァル作/みさやまたいち訳

ノーマンは、ごくふつうの男の子。ところが、ある日、つばさが生えてきました！空を飛ぶのって気持ちいい！でも、パパにもママにも、ともだちにも言えません。みんなノーマンのことを「ふつうの子」だと思ってるから…。

★ちょっと変わったおかあさんの話

『ふたりママの家で』 サウザンブックス社/2018/

パトリア・ポラック絵・文/中川亜紀子訳

私たち3人きょうだいには、ママがふたりいる。みんな「ふたりママ」のことが大好きだけど、中には違う考えをもつ人がいて…。遠い国から養子に迎えられた女の子が、家族との思い出を語るあたたかい物語。



『おかあちゃんが つくったる』 講談社/2012/長谷川義史作

おかあちゃんは、ぼくの欲しいものを何でもミシンで作ってしまう。でも、作ってくれるものはちょっとかっこわるい。ある日、ぼくが父親参観のお知らせをもらってくると…。あたたかくて、せつなくて、でも笑える家族の物語。

『小学生のボクは、鬼のようなお母さんにナスビを売らされました。』

ワイヤーオレンジ/2014/原田剛文/筒井則行絵

ボクのお母さんとお父さんのお仕事は農家で、ナスビをいっぱいつくっていました。ボクが10才くらいのとき、お母さんは鬼のような顔になって、市場で売れないナスビをボクにひとりで売りにいかせました。ボクが売るナスビはぜんぜん売れませんでした。どうしても売りたいかったボクは…。



★ちょっと変わったおとうさんの話



『こまるなあおとうさん』 アスラン書房/1994/

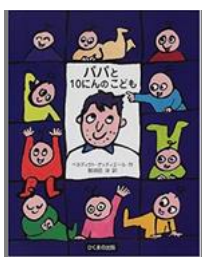
メイール・シャレヴ文/ヨスイ・アプルアフィヤ絵/いぬいゆみこ訳

やることなすことドジで、かっこ悪いおとうさんが、ぼくには問題。でも、お父さんが参観日に披露したケーキは、すごい傑作でみんなから拍手大喝采。ぼく、おとうさんのこと見直しちゃった。

『おとうさんのちず』 あすなる書/2009/

ユリ・シュルヴィッツ作/さくまゆみこ訳

戦争で、何もかも失ったぼくの家族は、遠い東の国まで逃げてきた。食べるものも足りなくて、パンを買うお金もほとんどなかった。そんなある日、おとうさんは、パンを買うかわりに、地図を買ってきた。おなかがペコペコのぼくは、はじめはおとうさんに腹をたてたけれど…。



『パパと10にんの子ども』

ひくまの出版/2001/ベネディクト・ゲッティエール作/那須田淳訳

パパには、10にんの子どもがいました。まいにち、10人の子どものせわで目がまわりそう。ある日、ひとりで船にのって旅にでることにしました。でも、パパは楽しくありません。どうしてでしょう…？

★ちょっと変わった家族の話

『いろいろないろいろなかぞくのほん』 少年写真新聞社/2018/
メアリ・ホフマン文/ロス・アスクイス絵/すぎもとえみ訳

家族は、いろいろ。いろいろな家族がある。大家族もあれば、ふたりっきりの家族もある。住んでいる家や、休みの日の過ごし方、学校や仕事のこと、それぞれちがって…。多様化する家族の形をイラストで楽しく紹介する。



『うちってやっぱりなんかへん?』 偕成社/2019/
トーリル・コーヴェ作/青木順子訳

春になった。わたしは7さい。お姉ちゃんは2つ上で、妹は2つ下だった。ほしいものは、自転車。いらぬものは、パパの口ひげ、3本あしのイス、ママが自慢のワンピース…。わたしの心はぐるぐるしてる。ノルウェーの少女の、なやまして美しい日々をえがきます。

★ちょっと変わった王様・王子様・お姫様の話

『王さまと王さま』 ポット出版/2015/リンダ・ハーン,
スターン・ナイランド文・絵/アンドレア・ゲルマー, 眞野豊訳
女王さまから結婚するように言われた王子さまは、いろいろな国のお姫さまと会いますが、どうもじっくりききません。最後にやってきた姫のお兄さまであるハーリック王子に会ったとき、王子さまはときめいて…。同性を好きになっても不思議でないことを伝える絵本。



『シンデレラ王子の物語』 ウイメンズブックストア松香堂/1995/
バベット・コール著/上野千鶴子訳

ちびで、にきびだらけで、かりかりでひよろひよろのシンデレラ王子は、いつも3人の大きな毛むくじゃらのお兄さんたちの後始末におおわていました。ある土曜日の夜、煙突からひとりの妖精が灰まみれで落ちてきて…。

『トンデレラ姫物語』 ウイメンズブックストア松香堂/1995/
バベット・コール著/上野千鶴子訳

美人でお金持ちのトンデレラ姫はペットに囲まれ気ままな一人暮らしが好き。むきもきらない花婿候補者にそれぞれ課題を出し、それをこなした人と結婚することにした。誰もやりとげられず面目をつぶした時、からいばり王子が現れて…。



『ウソつきなチルル姫』

郁朋社/2000/松井つかさ絵/星色スパーン文

「ハイ」しか言えないお姫さま生活はウソだったんだ。ある日爆発したチルル姫は、本当の自分として輝くために歩き始めた。幸せになるのに王子さまはいらない…かも。